

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2010 年 10 月 7 日(07.10.2010)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2010/113591 A1

- (51) 国際特許分類:
A61F 13/56 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2010/053593
- (22) 国際出願日: 2010 年 2 月 26 日(26.02.2010)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2009-087427 2009 年 3 月 31 日(31.03.2009) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): ユニ・チャーム株式会社(UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地 Ehime (JP).
- (72) 発明者: および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 野本貴志 (NOMOTO, Takashi) [JP/JP]; 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 永田明保 (NAGATA, Akiyasu) [JP/JP]; 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

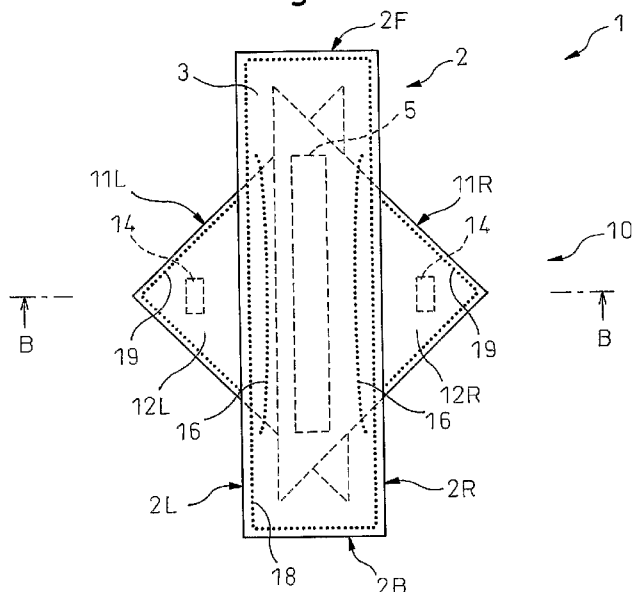
- (74) 代理人: 青木篤, 外 (AOKI, Atsushi et al.); 〒1058423 東京都港区虎ノ門三丁目 5 番 1 号 虎ノ門 3 7 森ビル青和特許法律事務所 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

[続葉有]

(54) Title: ABSORPTIVE ARTICLE

(54) 発明の名称: 吸収性物品

Fig.1A



(57) Abstract: A sanitary napkin (1) is provided with an absorbing main body (2) including: a liquid permeable top sheet (3); a liquid impermeable back sheet (4); and absorbing bodies (5) provided between the top sheet (3) and the back sheet (4). The sanitary napkin (1) is provided with a wing forming body (10) firmly held between the top sheet (3) and the back sheet (4). The wing forming body (10) is provided with wing forming members (11L, 11R) for forming a pair of wings (12L, 12R) which respectively extend outward beyond the left and right side edges (2L, 2R) of the absorbing main body (2). The wing forming members (11L, 11R) each comprise two intermediate sheets (13T, 13B) which are superposed on each other, and each absorbing body (5) is held between the intermediate sheets (13T, 13B) of each wing forming member (11L, 11R).

(57) 要約: 生理用ナプキン (1) は、液透過性トップシート (3)、液不透過性バックシート (4)、及びこれらトップシート (3) とバックシート (4) との間に配置された吸収体 (5) を含む吸収本体 (2) を具備する。トップシート (3) とバックシート (4) との間に把持されたウイング形成体 (10) を具備する。ウイング形成体 (10) は、吸収本体 (2) の左右側縁 (2L, 2R) を越えて外方にそれぞれ広がる一対のウイング (12L, 12R) を形成するウイング形成部材 (11L, 11R) を具備する。ウイング形成部材 (11L, 11R) は互いに重ね合わされた 2 枚の中間シート (13T, 13B) からそれぞれ構成され、これらウイング形成部材 (11L, 11R) の中間シート (13T, 13B) 間に吸収体 (5) がそれぞれ保持される。

WO 2010/113591 A1



添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称 吸収性物品

技術分野

本発明は吸収性物品に関する。

背景技術

液透過性トップシート、液不透過性バックシート、及びこれらトップシートとバックシートとの間に配置された吸収体を含む吸収本体を備え、吸収本体の左右側縁を越えて外方にそれぞれ拡がる一対のウィングをトップシートの表面に接合し、これらウィングにより吸収本体を下着のような衣類に固着する、吸収性物品が公知である（特許文献 1 参照）。

先行技術文献

特許文献

特許文献 1 特開 2 0 0 7 - 1 0 5 4 0 2 号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

しかしながら、ウィングはトップシートに接合されるだけなので、ユーザの動き等によってウィングがトップシートから離脱するおそれがある。ウィングがトップシートから離脱すると、吸収本体を衣類に確実に固定できなくなるので、吸収本体が撚れたり適正位置から外れたりするおそれがある。その結果、経血や尿といった被吸収液が漏れるおそれがある。

この点、トップシートに対するウィングの接合強度を高めるために、ウィングとトップシートとの間の接合箇所にヒートシール加工を施すことが考えられる。しかしながら、このようにすると、接合箇所が硬質化してしまい、吸収性物品の使用感が悪化するおそれがある。

課題を解決するための手段

前記課題を解決するために本発明によれば、液透過性トップシート、液不透過性バックシート、及びこれらトップシートとバックシートとの間に配置された吸収体を含む吸収本体を具備した吸収性物品において、吸収本体の左右側縁を越えて外方にそれぞれ拡がる一対のウィングを形成するウィング形成体であってトップシートとバックシートとの間に把持されたウィング形成体を具備し、該ウィング形成体が単一又は複数のウィング形成部材を具備し、該単一又は複数のウィング形成部材が互いに重ね合わされた2枚の中間シートから構成され、少なくとも1つのウィング形成部材の中間シート間に前記吸収体が保持される、吸収性物品が提供される。

発明の効果

吸収性物品の使用感を悪化させることなく吸収本体を衣類に確実に固着することができる。

図面の簡単な説明

図1 A 及び 1 B 生理用ナプキンの正面図及び線 B-B に沿ってみた概略横断面図である。

図2 A から 2 G 生理用ナプキンの製造方法を説明するための概略図である。

図 3 使用状態を説明するための生理用ナプキンの概略縦断面図である。

図 4 吸収本体の変更例を示す生理用ナプキンの正面図である。

図 5 A 及び 5 B ウィング形成体の種々の変更例を示す生理用ナプキンの正面図及び概略横断面図である。

図 6 ウィング形成体の種々の変更例を示す生理用ナプキンの概略横断面図である。

図 7 A 及び 7 B ウィング形成体の種々の変更例を示す生理用ナプキンの正面図及び概略横断面図である。

図 8 A から 8 C ウィング形成体の種々の変更例を示す生理用ナプキンの概略横断面図である。

発明を実施するための形態

図 1 A 及び 1 B は本発明を生理用ナプキンに適用した場合を示している。しかしながら、本発明をパンティーライナ、失禁パッドといった他の吸収性物品に適用することもできる。

図 1 A 及び 1 B を参照すると、本発明による実施例の生理用ナプキン（以下、単に「ナプキン」とも言う。）1 は吸収本体 2 を具備する。この吸収本体 2 は液透過性のトップシート 3 と、液不透過性のバックシート 4 と、これらトップシート 3 とバックシート 4 との間に配置された液保持性の吸収体 5 とを具備する。トップシート 3 及びバックシート 4 はほぼ同じ大きさの長方形状をなす。また、使用時に下着のような衣類に向けられるバックシート 4 の表面には、吸収本体 2 を下着に固着するための粘着部 6 が形成され、この粘着部 6 は保護シート 7 によって覆われる。

なお、図 1 A 及び 1 B において 2 F, 2 B, 2 L, 2 R はナプキン 1 ないし吸収本体 2 の前端縁、後端縁、左側縁、右側縁をそれぞれ

れ示している。この場合の前後左右は使用時のユーザの身体の前後左右に対応している。

ナプキン 1 は更に、トップシート 3 とバックシート 4 との間に把持されたウィング形成体 10 を具備する。図 1 A 及び 1 B に示される例では、ウィング形成体 10 は一对のウィング形成部材、すなわち左ウィング形成部材 11 L 及び右ウィング形成部材 11 R を具備する。

左ウィング形成部材 11 L は吸収本体 2 の左側縁 2 L を越えて外方に拡がる三角形形状の左ウィング 12 L を形成し、右ウィング形成部材 11 R は吸収本体 2 の右側縁 2 R を越えて外方に拡がる三角形形状の右ウィング 12 R を形成する。これら左ウィング 12 L 及び右ウィング 12 R は吸収本体 2 を下着に固着するのに用いられる。

特に図 1 B に示されるように、左ウィング形成部材 11 L 及び右ウィング形成部材 11 R はそれぞれ、互いに重ね合わされた 2 枚の中間シート 13 T, 13 B から構成される。これら中間シート 13 T, 13 B 間には吸収体 5 がそれぞれ保持され、これら吸収体 5 が鉛直方向において互いに重なり合うように、左ウィング形成部材 11 L 及び右ウィング形成部材 11 R が重ね合わされる。

左ウィング形成部材 11 L 及び右ウィング形成部材 11 R はそれぞれ、三角形形状、特に直角二等辺三角形形状をなしている。この場合、一つの角すなわち頂角がトップシート 3 及びバックシート 4 の外部に位置し、残りの 2 つの角すなわち底角がトップシート 3 とバックシート 4 との間に位置するように、左ウィング形成部材 11 L 及び右ウィング形成部材 11 R がトップシート 3 とバックシート 4 との間にそれぞれ配置される。ここで、吸収体 5 は一つの辺すなわち底辺に沿って帯状に配置される。

左ウィング形成部材 11 L 及び右ウィング形成部材 11 R の裏面

ないし中間シート 1 3 B には、左ウィング形成部材 1 1 L 及び右ウィング形成部材 1 1 R を下着に固着するための粘着部 1 4 がそれぞれ形成される。これら粘着部 1 4 はそれぞれの保護シート 1 5 によって覆われる。

更に、トップシート 3 には吸収体 5 の両側において円弧状に延びる一对のエンボス領域又はヒンジ領域 1 6 が形成される。

なお、図 1 B において、1 7 は左ウィング形成部材 1 1 L と右ウィング形成部材 1 1 R、トップシート 3 とウィング形成体 1 0、バックシート 4 とウィング形成体 1 0 をそれぞれ互いに接合するホットメルト接着剤を示している。また、図 1 A 及び 1 B において、1 8 はトップシート 3、バックシート 4、ウィング形成体 1 0 を互いに接合する接合領域を、1 9 は中間シート 1 3 T、1 3 B を互いに接合する接合領域を、それぞれ示している。これらの接合領域 1 8、1 9 はエンボス加工のようなヒートシール加工により形成される。

次に、本発明による実施例のナプキン 1 の製造方法を説明する。

まず、図 2 A に示されるように、長方形状、特に正方形状をなすシートブランク 1 3 B' が用意され、このシートブランク 1 3 B' の対角線 D の両側に一对の吸収体 5 が帯状にそれぞれ配置される。このシートブランク 1 3 B' は最終的に一对の中間シート 1 3 B を形成する。

次いで、図 2 B に示されるように、シートブランク 1 3 B' と同じ大きさ及び形状のシートブランク 1 3 T' がシートブランク 1 3 B' 上に重ね合わされる。このシートブランク 1 3 T' は最終的に中間シート 1 3 T を形成する。次いで、吸収体 5 それぞれの周囲においてシートブランク 1 3 T'、1 3 B' にヒートシール加工が施され、したがってシートブランク 1 3 T'、1 3 B' が接合領域 1

9により互いに接合される。このようにして、吸収体5を保持した中間体20が形成される。この場合の接合領域19はシートブランク13T', 13B'の四辺及び対角線Dに沿って延び、2つの三角形を形成する。したがって、吸収体5が中間体5から毀れるのが阻止されている。

次いで、図2Cに示されるように、中間体20が45度だけ回転される。次いで、図2Dに示されるように、中間体20が対角線Dに沿って二等分に切断され、左ウィング形成部材11L及び右ウィング形成部材11Rが形成される。

次いで、図2Eに示されるように、吸収体5が互いに重なるように、左ウィング形成部材11L及び右ウィング形成部材11Rが重ね合わされる。この場合、重なり領域にはホットメルト接着剤17（図1B参照）が螺旋状に又はベタ塗りで適用されており、したがって左ウィング形成部材11L及び右ウィング形成部材11Rが互いに接合される。その結果、ウィング形成体10が形成される。

次いで、図2Fに示されるように、ウィング形成体10がトップシート3とバックシート4との間に配置される。この場合、トップシート3とウィング形成体10との間、及びバックシート4とウィング形成体10の間には、ホットメルト接着剤17が螺旋状に又はベタ塗りで適用されており、トップシート3及びウィング形成体10が互いに接合され、バックシート4及びウィング形成体10が互いに接合される。次いで、トップシート3及びバックシート4の周縁にヒートシール加工が施され、したがってトップシート3、バックシート4、ウィング形成体10が接合領域18により互いに接合される。なお、本発明による実施例では、ウィングの縁部を切断する整形工程は設けられていない。

次いで、図2Gに示されるように、バックシート4上に粘着部6

が形成され、左ウィング 1 2 L 及び右ウィング 1 2 R の裏面ないし中間シート 1 3 B に粘着部 1 4 がそれぞれ形成される。この場合、粘着部 6, 1 4 はホットメルト接着剤をまず離型紙又は離型フィルム上に適用し、次いでバックシート 4 に転写することにより形成される。粘着部 1 4 はホットメルト接着剤を中間シート 1 3 B 上に直接的に適用することにより形成される。なお、粘着部 1 4 を離型紙又は離型フィルムから転写することにより形成してもよい。

次に、各要素の素材について説明する。

トップシート 3 はエアスルー不織布から構成される。しかしながら、トップシート 3 を例えば有孔又は無孔の不織布や多孔性プラスチックシートから構成することができる。

バックシート 4 はポリエチレンフィルムから構成される。しかしながら、バックシート 4 を、例えば疎水性の不織布、不透水性のプラスチックフィルム、不織布と不透水性プラスチックフィルムとのラミネートシート、耐水性の高いメルトブローン不織布、メルトブローン不織布を強度の強いспанボンド不織布で挟んだ S M S 不織布から構成することができる。

吸収体 5 は例えばフラッフ状パルプ又はエアレイド不織布に交絡された高吸収ポリマーから構成される。ここで、フラッフ状パルプは例えば化学パルプ、セルロース繊維、レーヨン、アセテート等の人工セルロース繊維から構成され、エアレイド不織布は例えばパルプと合成繊維とを熱融着させ又はバインダーで固着させた不織布から構成され、高吸収ポリマーは例えばデンプン系、アクリル酸系、アミノ酸系の粒子状又は繊維状のポリマーから構成される。なお、パルプを省略することもできる。このようにすると、吸収本体 2 が柔らかくなり、使用感が向上する。

表側の中間シート 1 3 T は一般的に用いられる不織布で親水性を

保持したものが好ましく、例えばエアスルー不織布、ヒートロール不織布、スパンボンド不織布、メルトブロー不織布から構成される。中間シート 13 T はユーザ身体に接触し得るので、風合いや肌触りの点から、エアスルー不織布が特に好ましい。また、坪量は風合いや肌触り、液体透過性の点から、 15 g/m^2 から 100 g/m^2 が好ましい。

裏側の中間シート 13 B も一般的に用いられる不織布で親水性を保持したものが好ましく、例えば例えばエアスルー不織布、ヒートロール不織布、スパンボンド不織布、メルトブロー不織布から構成される。特に、メルトブロー不織布、メルトブロー不織布を強度の強いスパンボンド不織布で挟んだ SMS 不織布が好ましい。SMS 不織布は平滑性が高いので、上述の粘着部 14 が適用されるのに適しているからである。坪量は液体の透過性と高吸収ポリマーの脱落を考慮すると、 10 g/m^2 以下、高くても 20 g/m^2 以下が好ましい。

粘着部 6, 14 は例えばスチレンーイソプレネースチレンブロック共重合体 (SIS)、スチレンーブタジエネースチレンブロック共重合体 (SBS)、スチレンーエチレンーブチレンーエチレン共重合体 (SEBS) 等のホットメルト粘着剤から構成される。

さて、ナプキン 1 は次のようにして下着に固着される。

すなわち、まず、バックシート 4 側の保護シート 7 が取り外され、ナプキン 1 ないし吸収本体 2 が粘着部 6 を介し下着に固着される。次いで、左ウィング 12 L 及び右ウィング 12 R の保護シート 15 が取り外され、左ウィング 12 L 及び右ウィング 12 R がそれぞれの粘着部 14 を介して下着に固着される。すなわち、図 3 に示されるように、左ウィング 12 L 及び右ウィング 12 R が吸収本体 2 下方の下着 U の外面にそれぞれ固着される。

このようにして左ウィング 1 2 L 及び右ウィング 1 2 R が下着 U に固着され、したがって吸収本体 2 が下着 U に固定される。この場合、左ウィング 1 2 L 及び右ウィング 1 2 R は下着 U を吸収本体 2 との間に挟みこむ。

したがって、吸収本体 2 にさまざまな方向の外力が作用しても、吸収本体 2 の振れや位置ずれを抑制することができる。すなわち、吸収本体 2 を下着 U に確実に固定することができ、したがって被吸収液の漏れを抑制することができる。また、漏れに対するユーザの不安をなくすことができる。

特に本発明による実施例では、左ウィング形成部材 1 1 L 及び右ウィング形成部材 1 1 R がトップシート 3 とバックシート 4 との間に把持されているので、使用感を損なうことなく、これら左ウィング形成部材 1 1 L 及び右ウィング形成部材 1 1 R を吸収本体 2 に確実に接合することができる。

また、トップシート 3 及びバックシート 4 が長形状をなし、中間シート 1 3 T, 1 3 B が長形状のシートブランク 1 3 T', 1 3 B' を二分して形成されるので、トリムロスをゼロまで低減することができる。

更に、左ウィング 1 2 L 及び右ウィング 1 2 R が三角形をなしているので、従来のウィングと形状が似ており、ユーザにとって違和感が少ない。

ところで、従来の一般的なウィング付き吸収性物品では、吸収本体の左右側縁を越えて延びるトップシート及びバックシートからウィングが形成される。ところが、バックシートに一般に用いられるポリエチレンシートは耐熱性が低いので、ホットメルト接着剤を直接適用することはできない。このため、ホットメルト接着剤をまず離型紙又は離型フィルム上に適用し、次いでバックシートに転写し

て粘着部が形成される。ところが、離型紙又は離型フィルムの表面にはシリコーンが存在しており、このシリコーンが粘着部表面に残ると、衣類に対する粘着部の固着強度が低下するおそれがある。

これに対し、本発明による実施例では、例えばSMS不織布から構成される中間シート13Bに粘着部14が形成されるので、離型紙又は離型フィルムを用いることなく、粘着部14を形成することができる。したがって、左ウイング12L及び右ウイング12Rの高い固着強度を確保することができる。

また、本発明による実施例の吸収性物品製造方法は、一般的なウイング付き吸収性物品の製造工程と比べて、工程数がほとんど変わらず、複雑な装置を追加する必要もない。

これまでの説明では、トップシート3及びバックシート4が長方形形状をなし、したがって吸収本体2は長方形形状をなしている。しかしながら、図4に示されるように、吸収本体2の前端縁2F及び後端縁2Bを湾曲になるように切断してもよい。この場合、トリムないし切断屑が発生するけれども、トリムロスを大幅に低減できる。

また、これまでの説明では、左ウイング形成部材11L及び右ウイング形成部材11Rは三角形形状をなし、左ウイング12L及び右ウイング12Rも三角形形状をなしている。しかしながら、図5A及び5Bに示されるように、左ウイング形成部材11L及び右ウイング形成部材11Rが長方形形状、特に正方形形状をなし、左ウイング12L及び右ウイング12Rも長方形形状をなすようにしてもよい。このようにすると、中間体20を回転させる必要がない（図2C参照）。

あるいは、図6に示されるように、左ウイング形成部材11Lが吸収体5を保持することなく、右ウイング形成部材11Rが吸収体5を保持するようにしてもよい。すなわち、包括的に言うと、左ウ

ィング形成部材 1 1 L 及び右ウィング形成部材 1 1 R のうち一方又は両方の中間シート 1 3 T, 1 3 B 間に吸収体 5 が保持されるということになる。

更に、図 7 A 及び 7 B に示されるように、ウィング形成体 1 0 が単一のウィング形成部材 1 1 を具備するようにしてもよい。この場合、単一のウィング形成部材 1 1 は吸収本体 2 の左右側縁 2 L, 2 R を越えて外方にそれぞれ拡がる一対のウィング 1 2 L, 1 2 R を形成する。また、単一のウィング形成部材 1 1 は 2 枚の中間シート 1 3 T, 1 3 B から構成され、これら中間シート 1 3 T, 1 3 B 間に吸収体 5 が保持される。

したがって、包括的に言うと、ウィング形成体 1 0 は単一又は複数のウィング形成部材を具備し、単一又は複数のウィング形成部材が互いに重ね合わされた 2 枚の中間シートから構成され、少なくとも 1 つのウィング形成部材の中間シート間に吸収体 5 が保持されるということになる。なお、図 7 A 及び 7 B に示される例では、左ウィング 1 2 L 及び右ウィング 1 2 R は三角形状をなしている。しかしながら、図 5 A 及び 5 B に示されるように、左ウィング 1 2 L 及び右ウィング 1 2 R は四角形状であってもよい。

一方、これまでの説明では、左ウィング 1 2 L 及び右ウィング 1 2 R は互いに重ね合わされた 2 枚の中間シート 1 3 T, 1 3 B から構成されている。しかしながら、左ウィング 1 2 L 及び右ウィング 1 2 R を単一の中間シート 1 3 T, 1 3 B から構成するようにしてもよい。

すなわち、図 8 A に示される例では、左ウィング 1 2 L が左ウィング形成部材 1 1 L の裏側の中間シート 1 3 B のみから構成され、右ウィング 1 2 R が右ウィング形成部材 1 1 R の裏側の中間シート 1 3 B のみから構成される。この場合、表側の中間シート 1 3 T は

吸収本体 2 の左右側縁 2 L, 2 R を越えて外方に拡がっておらず、吸収体 5 を保持するのに必要な大きさで足りる。

図 8 B に示される例でも、表側の中間シート 1 3 T は左右側縁 2 L, 2 R を越えて外方に拡がっておらず、左ウィング 1 2 L 及び右ウィング 1 2 R は裏側の中間シート 1 3 B のみから構成される。

図 8 C に示される例では、左ウィング 1 2 L は中間シート 1 3 B から構成され、右ウィング 1 2 R は中間シート 1 3 T から構成される。この場合、中間シート 1 3 B は右側端 2 R を越えることなく左側縁 2 L を越えて外方に拡がっている。また、表側の中間シート 1 3 T は左側端 2 L を越えることなく右側縁 2 R を越えて外方に拡がっている。ここで、中間シート 1 3 T, 1 3 B はトップシート 3 とバックシート 4 との間において互いに重なり合っており、この重なり領域において吸収体 5 が保持される。

符号の説明

- 1 生理用ナプキン
- 2 吸収本体
- 3 トップシート
- 4 バックシート
- 5 吸収体
- 1 0 ウィング形成体
- 1 1 L 左ウィング形成部材
- 1 1 R 右ウィング形成部材
- 1 2 L 左ウィング
- 1 2 R 右ウィング

請 求 の 範 囲

請求項 1

液透過性トップシート、液不透過性バックシート、及びこれらトップシートとバックシートとの間に配置された吸収体を含む吸収本体を具備した吸収性物品において、吸収本体の左右側縁を越えて外方にそれぞれ拡がる一対のウィングを形成するウィング形成体であってトップシートとバックシートとの間に把持されたウィング形成体を具備し、該ウィング形成体が単一又は複数のウィング形成部材を具備し、該単一又は複数のウィング形成部材が互いに重ね合わされた2枚の中間シートから構成され、少なくとも1つのウィング形成部材の中間シート間に前記吸収体が保持される、吸収性物品。

請求項 2

前記ウィング形成体が、吸収本体の左側縁を越えて外方に拡がる左ウィングを形成する左ウィング形成部材と、吸収本体の右側縁を越えて外方に拡がる右ウィングを形成する右ウィング形成部材とを具備し、左ウィング形成部材及び右ウィング形成部材のうち一方又は両方の中間シート間に吸収体が保持される、請求項1に記載の吸収性物品。

請求項 3

前記左ウィング形成部材及び右ウィング形成部材ウィング形成部材両方の中間シート間に吸収体がそれぞれ保持されており、これら吸収体が互いに重ね合わされる、請求項2に記載の吸収性物品。

請求項 4

前記ウィング形成体が、吸収本体の左右側縁を越えて外方にそれぞれ拡がる一対のウィングを形成する単一のウィング形成部材を具備し、該単一のウィング形成部材の中間シート間に吸収体が保持さ

れる、請求項 2 に記載の吸収性物品。

請求項 5

前記中間シートが長方形形状シートを二等分することにより形成される、請求項 2 に記載の吸収性物品。

請求項 6

前記左ウィング形成部材及び右ウィング形成部材が三角形形状をなす、請求項 2 に記載の吸収性物品。

請求項 7

前記左ウィング形成部材及び右ウィング形成部材が長方形形状をなす、請求項 2 に記載の吸収性物品。

請求項 8

前記トップシート及びバックシートが長方形形状をなす、請求項 1 に記載の吸収性物品。

Fig.1A

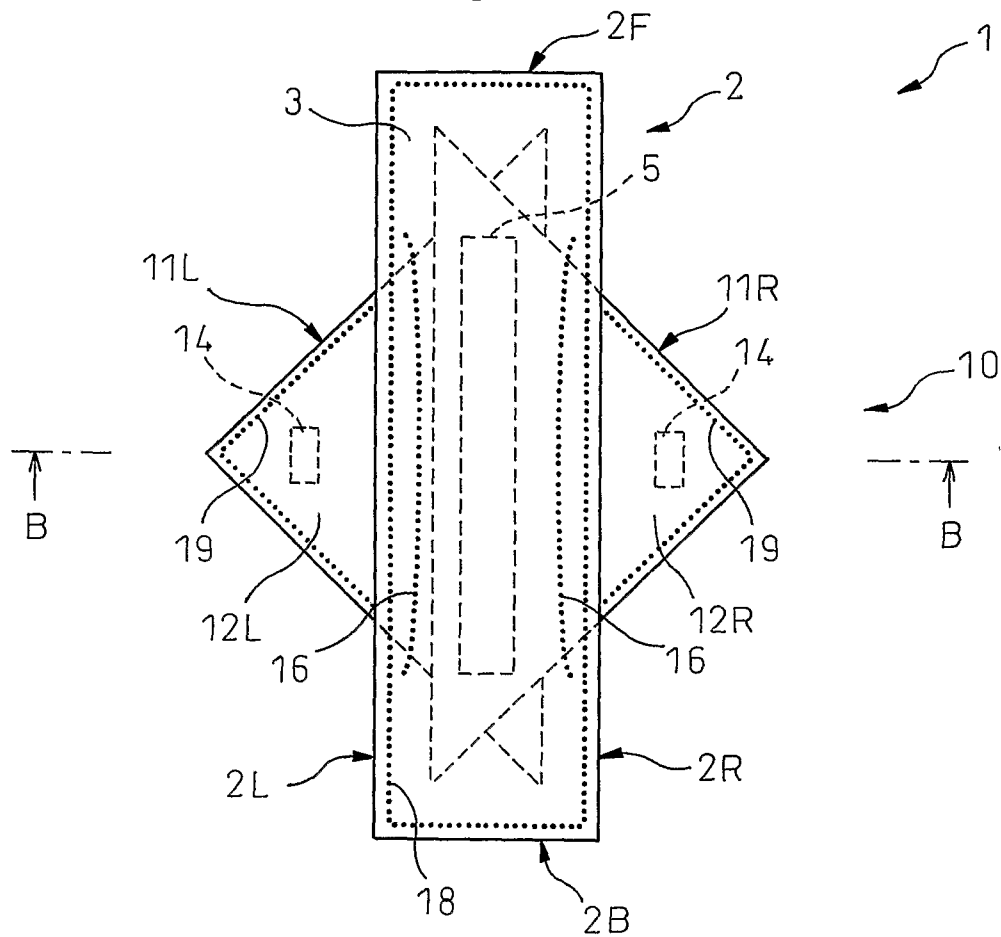


Fig.1B

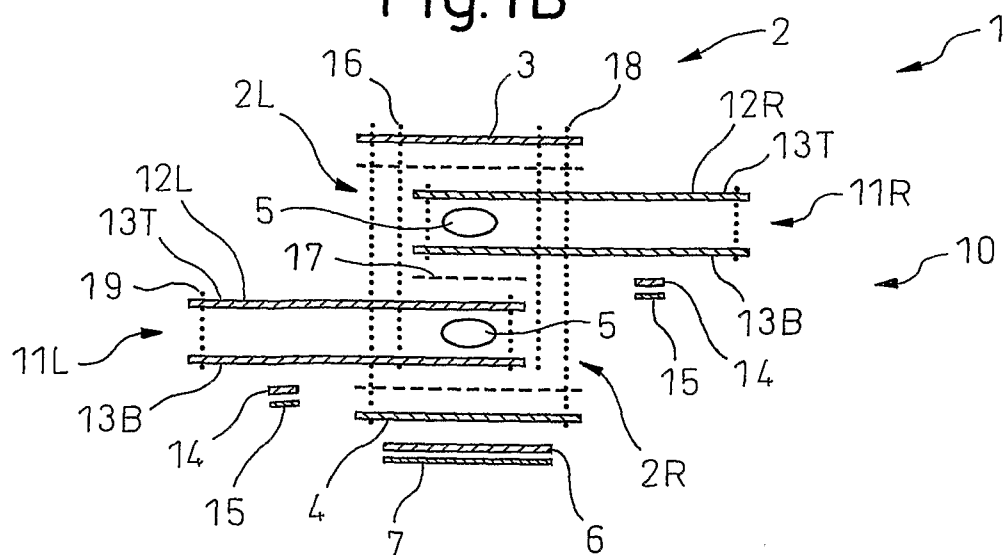


Fig.2A

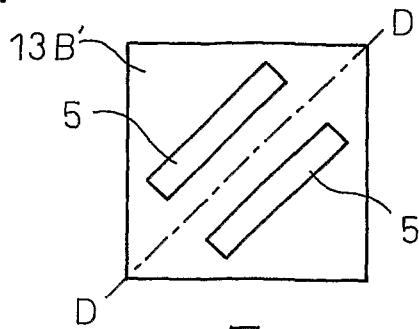


Fig.2B

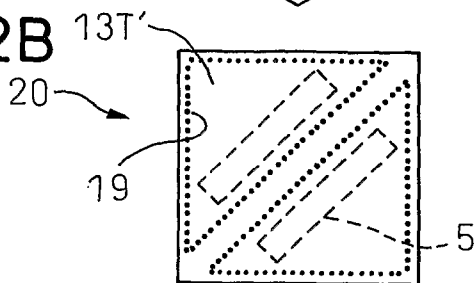


Fig.2C

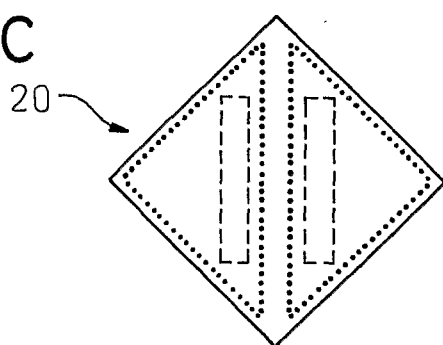


Fig.2D

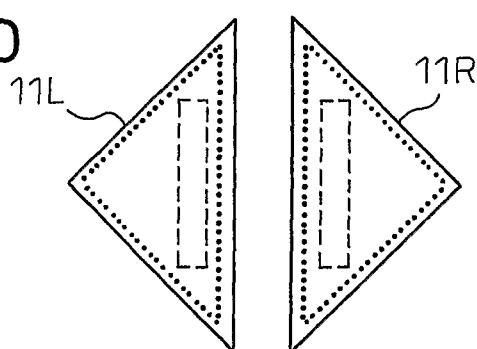


Fig.2G

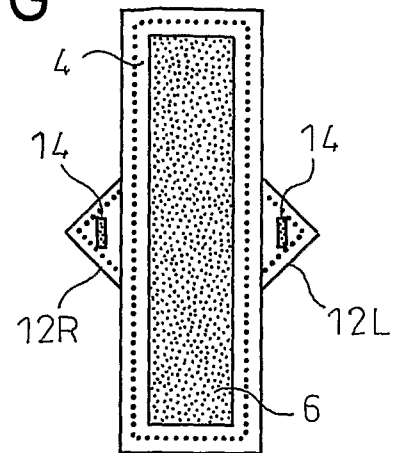


Fig.2F

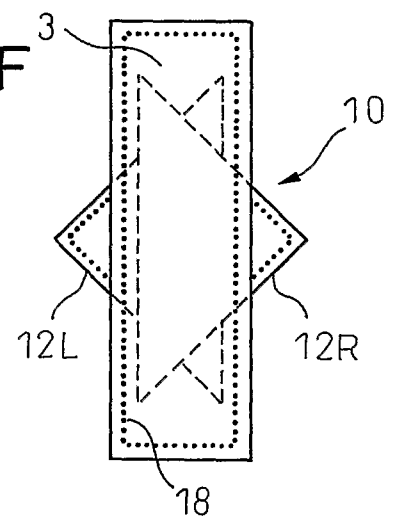


Fig.2E

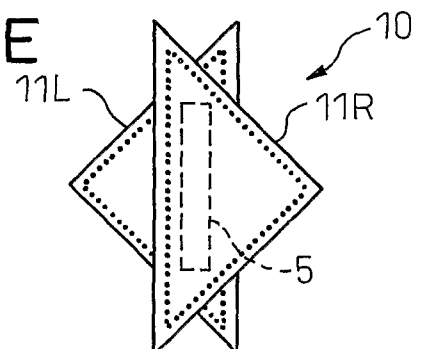


Fig.3

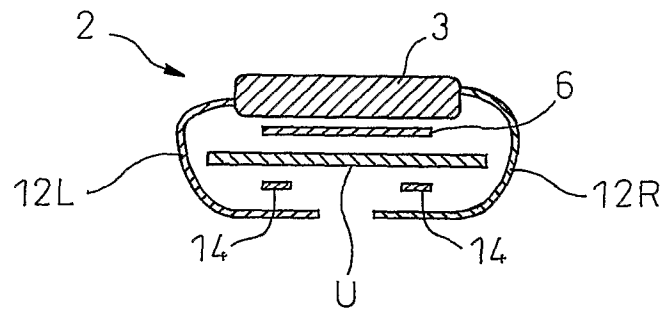


Fig.4

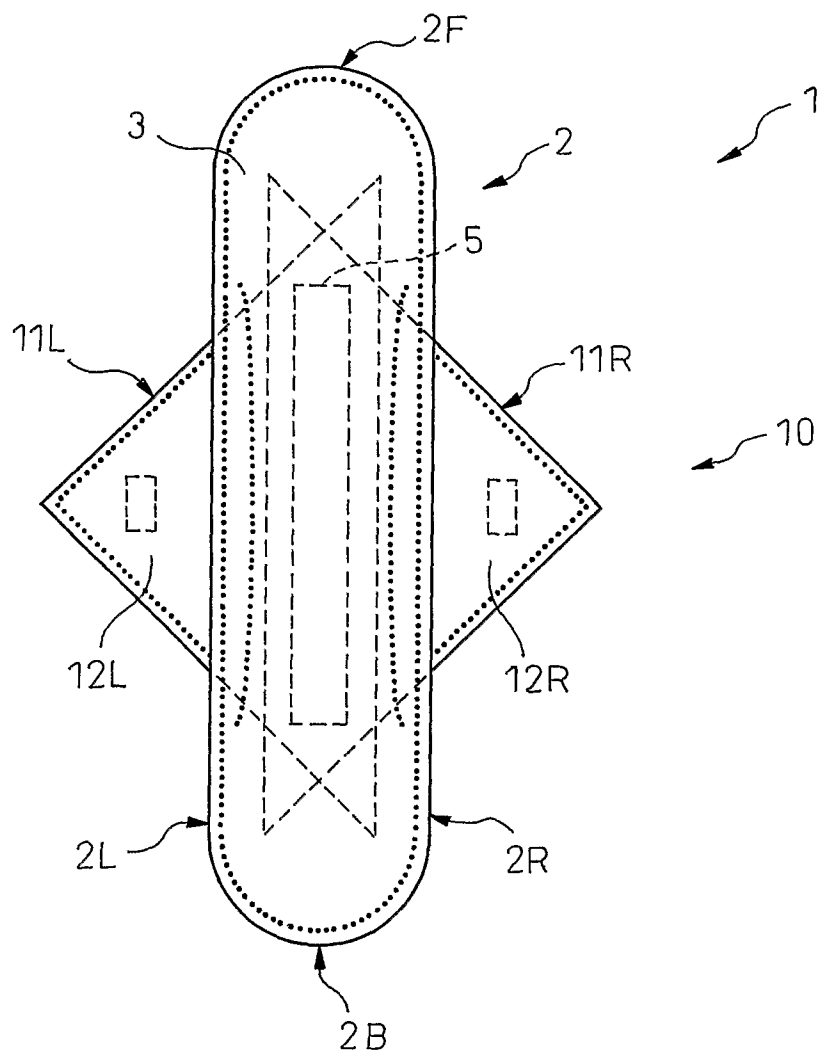


Fig.5A

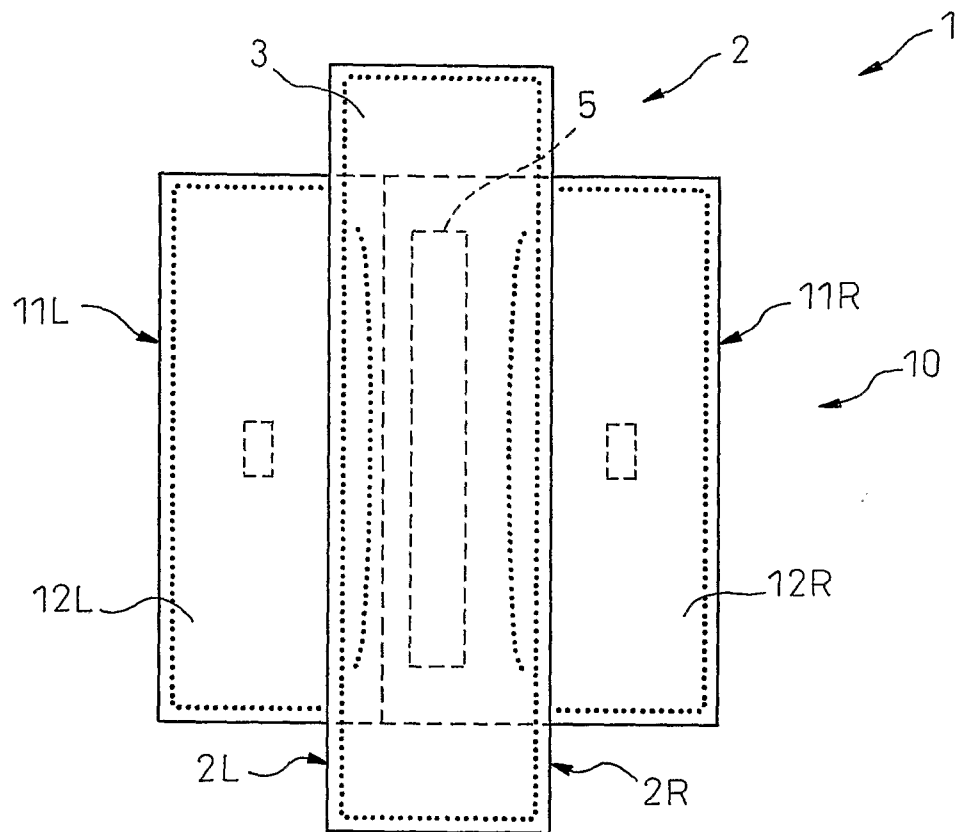


Fig.5B

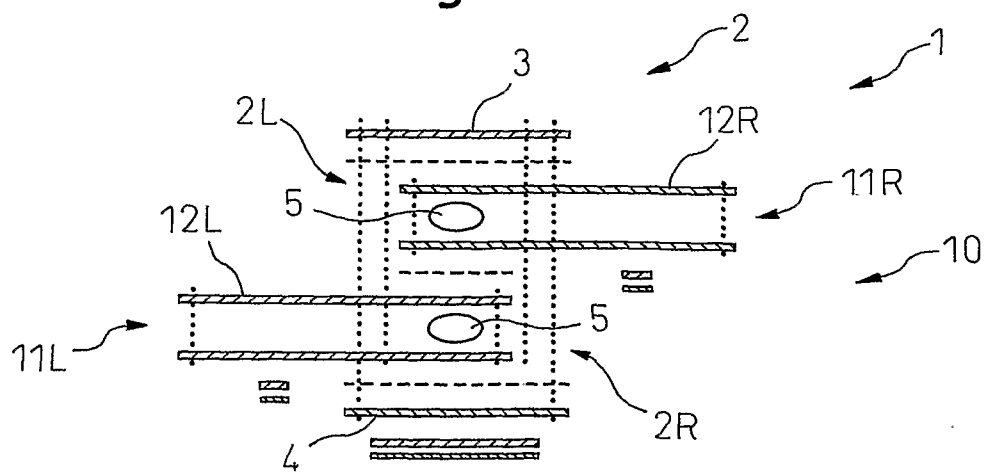


Fig.6

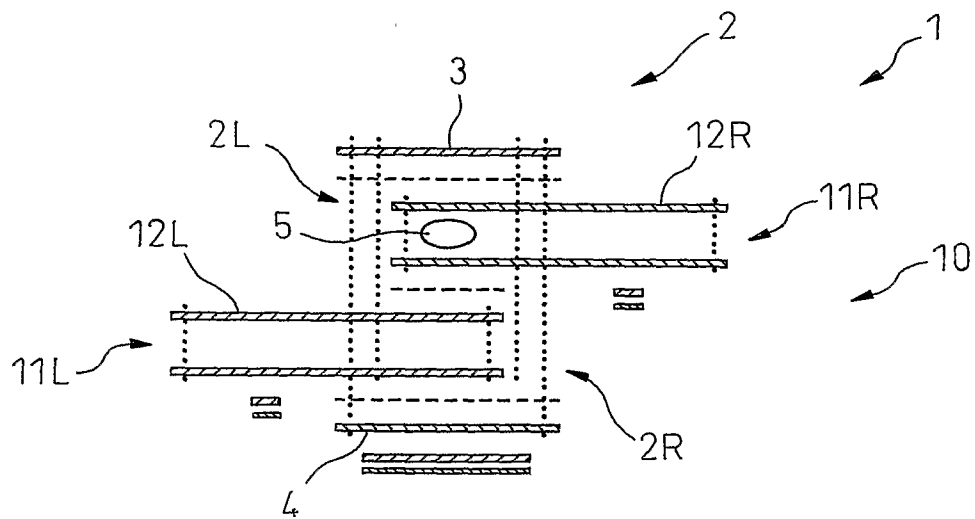


Fig.7A

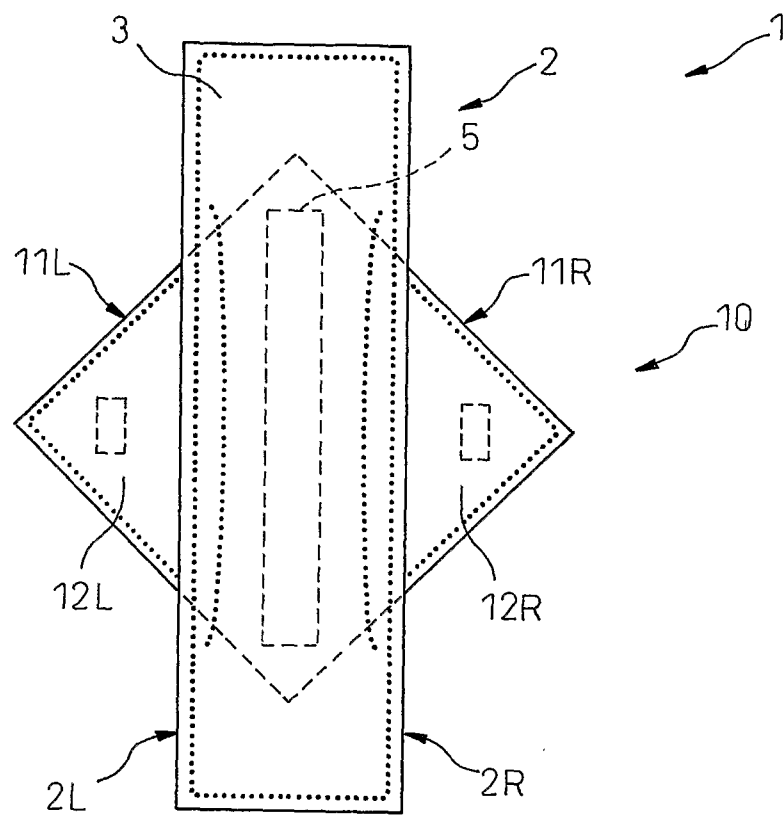


Fig.7B

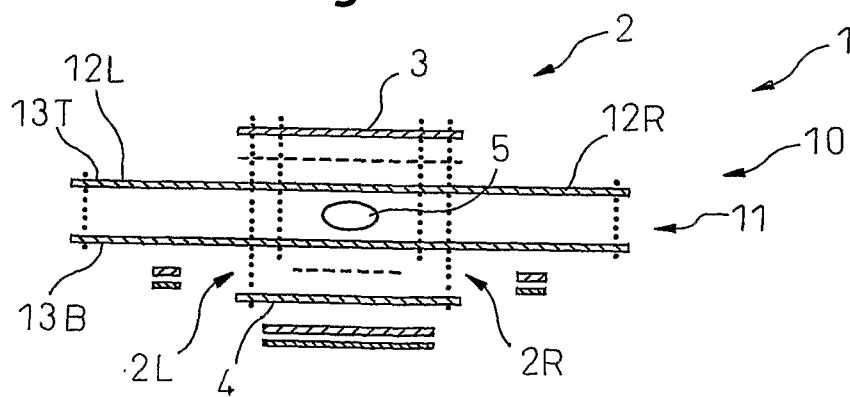


Fig.8A

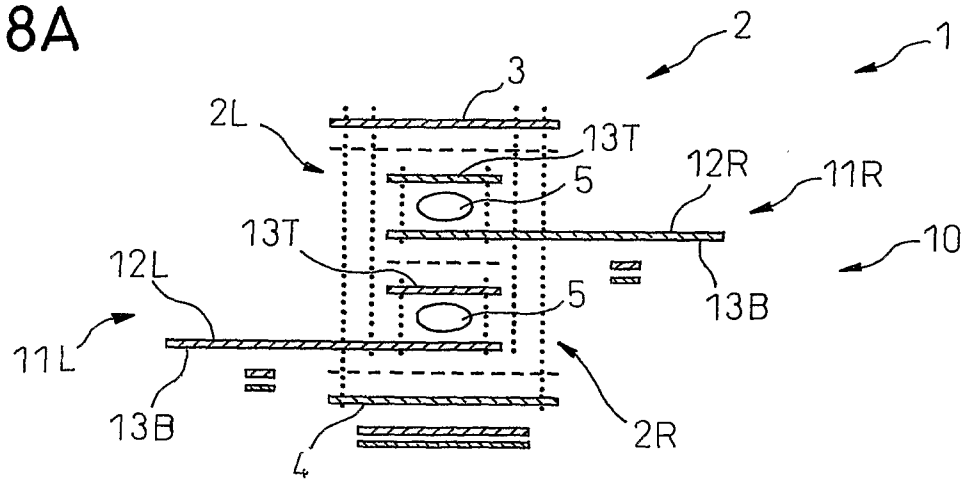


Fig.8B

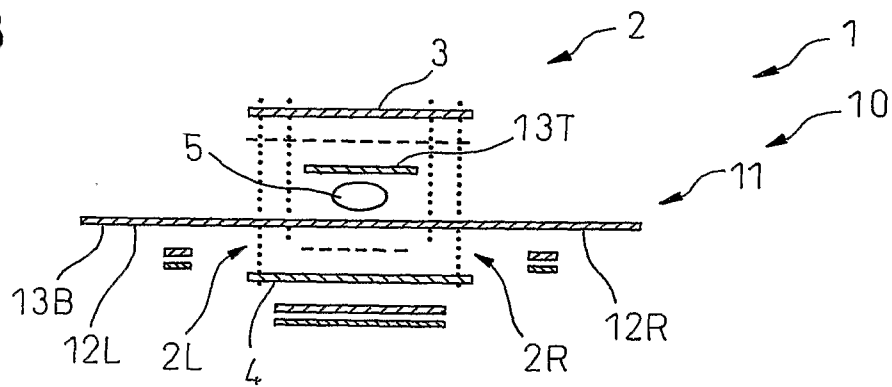
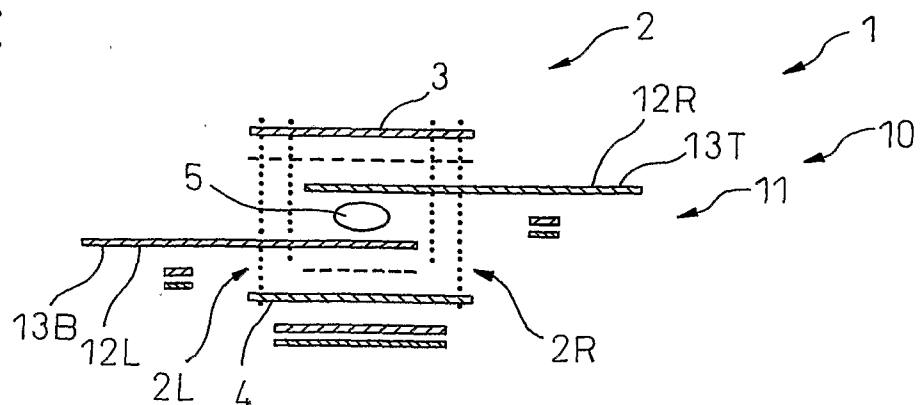


Fig.8C



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2010/053593

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61F13/56 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61F13/56

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2010

Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2010 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2010

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y A	JP 11-235358 A (Shiseido Co., Ltd.), 31 August 1999 (31.08.1999), paragraph [0018]; fig. 13 to 14 (Family: none)	1-2, 4-8 3
Y A	JP 2004-298596 A (Kobayashi Pharmaceutical Co., Ltd.), 28 October 2004 (28.10.2004), paragraph [0032]; fig. 4 (Family: none)	1-2, 4-8 3

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
19 May, 2010 (19.05.10)Date of mailing of the international search report
01 June, 2010 (01.06.10)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2010/053593

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 111383/1983 (Laid-open No. 20216/1985) (Ken NOMURA), 12 February 1985 (12.02.1985), (Family: none)	1-8

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. A61F13/56 (2006.01) i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. A61F13/56

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 0 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 0 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 0 年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y A	JP 11-235358 A (株式会社資生堂) 1999. 08. 31, 段落【0018】, 第 13-14 図 (ファミリーなし)	1-2, 4-8 3
Y A	JP 2004-298596 A (小林製薬株式会社) 2004. 10. 28, 段落【0032】, 第 4 図 (ファミリーなし)	1-2, 4-8 3
A	日本国実用新案登録出願 58-111383 号 (日本国実用新案登録出願公開 60-20216 号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (野村 健) 1985. 02. 12, (ファミリーなし)	1-8

C 欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の 1 以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

1 9 . 0 5 . 2 0 1 0

国際調査報告の発送日

0 1 . 0 6 . 2 0 1 0

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (I S A / J P)

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号

特許庁審査官 (権限のある職員)

武井 健浩

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 3 2 0

3 B

3 2 2 4